

3月11日～16日は



## 子どものグリーフワーク週間

# 子どもの声が聞こえますか？

### 子どものグリーフワーク週間

子ども時代に愛する人と死別する体験が、子どもの心に痛々しい影響を与えることについて、一人でも多くの方が理解を深める機会となるために設けられています。

### ご存じですか？

ある統計によれば、

- ・5人に1人の子どもが、18歳までに、家族や親など、身近な人との死別を経験します。
- ・20人に1人の子どもが、15歳までに、両親または片親と離死別を経験します。
- ・11歳から16歳までの78%の子どもが、1人以上の親しい親類または友人と死別すると言われます。

### 親と死別した子ども

- ・親と死別した子どもについての研究は、多くの国で行われており、いずれも、情緒面や行動面で、様々な症状が見られるという報告があります。
- ・子どもは、また誰かを失うのではないかと、言う不安から、残された家族の安全への過剰な憂慮や別離をめぐる恐れを抱くようになります。

### こうした子どもたちは

- ・自分の気持ちは誰も分かってくれないと思っています。
- ・子どもは、学校へ通い、部活にも参加し、一見普通に見えます。しかし、心には大きな穴が空いたままになっています。
- ・自分が経験したことを心のうちにしまい込み、自分は他の友達とどこか違うと感じて、孤立しています。
- ・どの学校にも、また、私たちの周りのどこにでも、こうした子どもはいますが、私たちが気づかないだけなのです。

### 子どもたちが求めているのは

- ・子どもが、自分は理解され、支えられていると思えるために、家族、友だち、教師、地域社会の人々などが、耳を傾けることが大切です。
- ・子どもによっては、自分の感情や考えをうまく表現できないことがあっても、ボディランゲージ（身体言語）や行動で受けとめることができます。
- ・その時、子どもは、何も語りたくないと思うかも知れませんが、その気になれば、話を聞いてくれる人が身近にいることを知っておくことが大切です。

・子どもの悲しみを受けとめるのは、親や保護者だけの役割ではありません。他の家族や親類、友人、仲間、学校関係者、地域関係者などがその役割を取ることができます。

・グリーフワークかがわは、いつでも、悲しみの中にある子どもや家族のお手伝いをすることができます。

## 私たちの目標と活動

**悲しい出来事に遭遇した子どもは、孤独で支えを失った感情の中にいます。**

**悲しみの中にある子どもを支えるためには、子どもをとりまく環境や社会を変えることが必要です。**

・身近な人との死別が、子どもに与える深刻な影響について、認識と理解を深めます。  
・悲しみの中にある子どもを支えることが、いかに有意義であるかについて地域社会の理解を深めて行きます。

・悲しみの中にある子どもが何を求めているかを知るための知識や情報を提供します。  
・こうした認識と理解を深めるために役立つ社会資源を開発します。



グリーフワークかがわは、2000年7月から活動を行っている認定特定非営利活動法人です。人生におけるさまざまな喪失を体験した人たちが、病的悲嘆に陥ることを防止し良い生き方を見出すための支援を行なっています。

私たちは、人生のさまざまな局面で喪失を経験します。愛する人や友人との死別、慢性疾患への罹患、不慮の出来事など、予期された喪失もあれば、突然破壊的に襲ってくる喪失もあります。対象喪失は、誰もが体験しうることで、こうした心の過程をたどる中で、絶望感や孤独感に圧倒され、生きる力を失ってしまうこともあります。グリーフワークとは、そうした喪失を体験したとき、喪失の事実を受け入れ、人それぞれの方法で悲嘆の苦痛を乗り越え、人生に新たな意味を見いだしていく心の過程です。

グリーフワークかがわは、「身近な人をなくした方のグループミーティング」(☎090-6288-1011)、自殺予防電話相談(ヘルプラインかがわ ☎080-6390-8088、ホットラインかがわ ☎087-813-1247)、グリーフカウンセリング(☎080-6390-8088)、グリーフカウンセラー養成講座、公開セミナー、シンポジウム、啓発用の冊子の発行などを行なっております。

**認定 NPO 法人グリーフワークかがわ事務局**

**〒761-8054 高松市東八幡町 16 番地 1**

**TEL : 090-6288-1011**

**受付時間 : 火・水・木**

**18:30~20:30**

<https://www.facebook.com/griefwork.kagawa/>

<http://www.griefwork.jp/>



参考文献 : 1) Kenneth Doka, Editor of OMEGA, Journal of Death and Dying

2) [nahic.ucsf.edu/downloads/Mortality.pdf](http://nahic.ucsf.edu/downloads/Mortality.pdf) 3) Harrison and Harrington, 2001 4) Dowdney, 2000; Haine et al., 2008

5) [www.childrensgriefawarenessweek.com](http://www.childrensgriefawarenessweek.com) 6) [griefcounter.org.uk](http://griefcounter.org.uk)

本資料の複製使用について : 営利目的並びに配布資料、記事、書籍またはスライド作成のために使用することは認められません。